

大阪の四季を 深ぼりする

2023 Spring

アルキメトロ

Osaka Metro

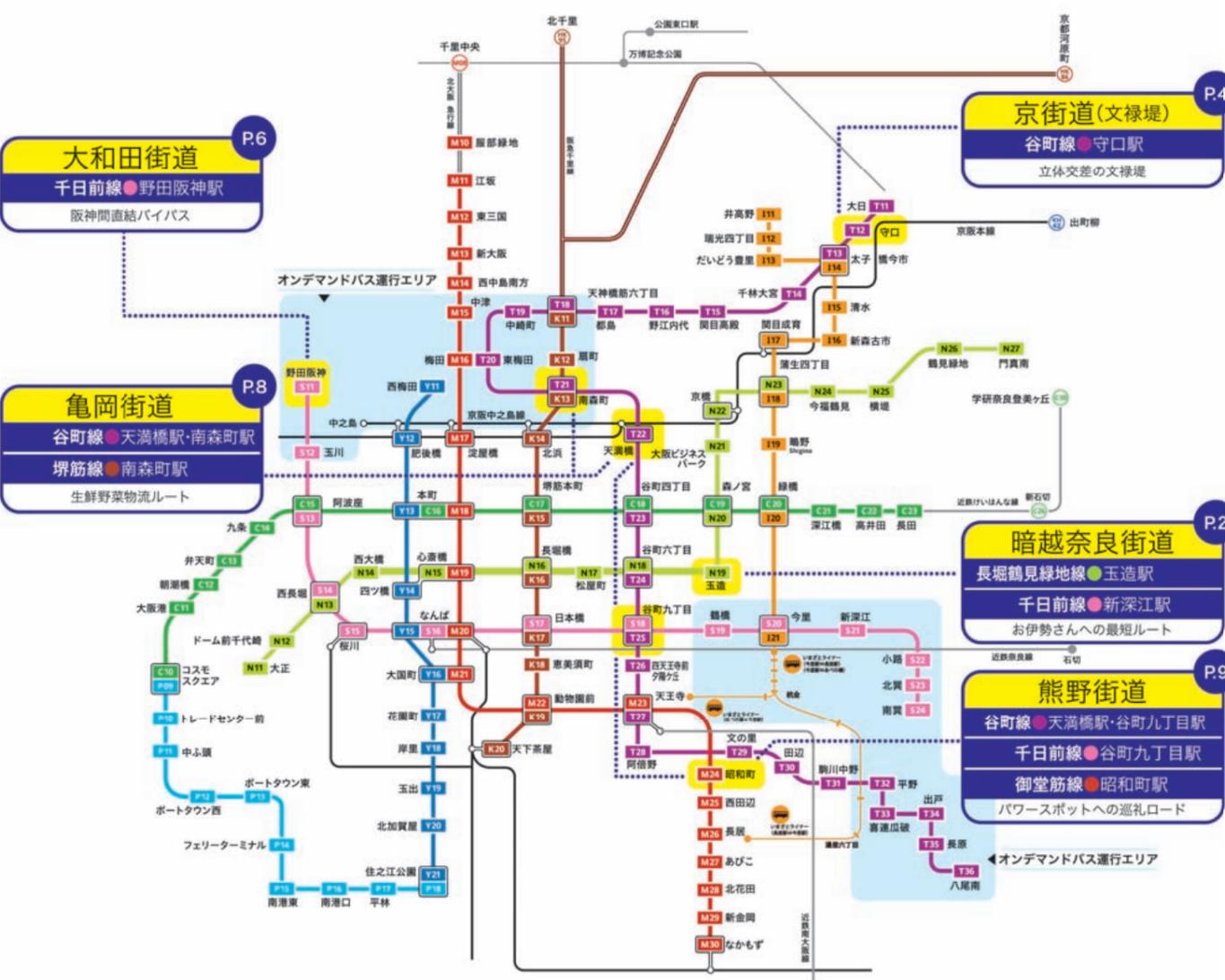
特集

街道ラバース東へ西へ

●京街道●暗越奈良街道●亀岡街道●大和田街道●熊野街道



Osaka Metro 街道ラバース東へ西へ



●大阪の四季を深ぼりする「アルキメトロ」編集部公式 SNS (ツイッター、インスタグラム) @arukimetro をぜひご覧ください。

すべてのお客さまがもっと安全に利用しやすいOsaka Metroに
2023年4月1日より鉄道駅バリアフリー料金を運賃に加算し、
さらなるバリアフリー設備の拡充に取り組みます。

お客さまには料金のご負担をおかけいたしますが、あらゆるお客さまに今以上に便利で快適にご利用いただけるよう努めてまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

Osaka Metro 鉄道駅バリアフリー料金制度

モバイルバッテリーシェアリング
「ChargeSPOT」を増設!

お客さまの更なる利便性向上と駅の機能拡充を目的として、2022年12月からモバイルバッテリーシェアリング「ChargeSPOT」をOsaka Metro 御堂筋線天王寺駅など59駅に計61台順次増設します。(既に御堂筋線梅田駅など30駅に計32台設置済み)

「ChargeSPOT」は、専用アプリから近くのバッテリースタンドを探してバッテリーを借り、別のバッテリースタンドに返却することもできます。大阪観光の際にはもちろん、通学、通勤や出張時など様々なシーンで是非ご利用下さい。

Osaka Metro は、駅をご利用のお客さまにとって、より便利で快適な駅づくりを目指してまいります。

※新型コロナウイルス感染症の影響により休業日や営業時間等が変更になる場合がありますので、お出かけ前に必ず最新情報を各施設・各店舗までご確認ください
※掲載内容は2023年1月現在のものです ※価格はすべて税込です

探しに行こう

街道の記憶

道を歩いていると、「広くもなく狭くもなく、なぜかゆる〜く曲がりくねっている。何でだろう?」ということはありませんか? きつとその道ははるか昔に「街道」として造られたもの。石碑なども見えます。「京街道」「熊野街道」「大和田街道」……碑の周辺だけ石畳風の舗装になっていたり、しばらくすると普通の「道路」に戻ったりします。「街道の記憶」を留めるものは大阪では少ないのかな……と思ってあちこち掘ってみました。実はさくさくと見つかりました。それは、お寺の裏の路地だったり(平安時代の古道・P10)、駅前に突如現れる立体交差点だったり(秀吉が作った堤防上の街道P4)、2千年にわたって受け継がれている伝統工芸だったり(巡礼に欠かせないアイテム・左頁)。さらには街道歩きにお誘え向きの立ち寄りしたい名店もありました。導いてくれたのは、大阪城天守閣前館長で九度山・真田ミュージアム名誉館長、歴史家の北川央さんです。

地下鉄やシティバスで行くことができる街道は、あなたのご近所にある。今を生きる「街道」をしつくりゆつくり、歩いて愛でて、見つけてみてください。



~街道のツボご案内します~

北川 央さん (九度山・真田ミュージアム名誉館長)

1961年大阪府生まれ。87年に大阪城天守閣学芸員となり、2014~22年に大阪城天守閣館長を務め、退任後に現職。東京国立文化財研究所・国際日本文化研究センターなどの学術研究機関で委員や研究員、講師を歴任。職歴期政治史ならびに近世庶民信仰史、大阪地域史専攻。「大阪城 秀吉から現代まで50の秘話」(新潮新書)、「近世の巡礼と大阪の庶民信仰」(岩田書院)ほか著書多数。

古代は「街道」とは呼びませんでした。律令により七道(東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道)が定められ、今「街道」と言われているところも、「〇〇道」と言われることが多かったのです。

「街道」の原点は権力者の移動のための道です。国司ら役人が街道を通過して地方の国に着任しました。それが主要街道として江戸時代以降も形を変えて残っています。庶民が移動するのは、主に聖地への参詣です。「熊野街道」や「高野街道」のように参拝のための道が、皇族や貴族だけでなく庶民も通ることで整備されていきました。

そして場所によって、街道の呼び名は変わりました。「京街道」は大坂から見た場合の呼び名。京では「大坂街道」と言っていました。「暗越奈良街道」も大坂の人は「奈良道」と言っていました。奈良の人は同じ道を「大坂道」と呼んでいました。高野街道も、高野山の麓の九度山では「京・大坂道」と言います。どこから見ると、街道の名前は変わりました。

お伊勢参り最短ルートには、深江の「菅笠」がマストだった。

暗越奈良街道

起点・玉造
終点・奈良市尼ヶ辻一丁目三条通

街道の起点は玉造の二軒茶屋。「つるや」「ますや」という2つの茶屋が繁盛していたこと。この名が世に広まった。ここで旅のお供となる菅笠を買い、見送りの人と別れを惜しんだという。そこから一路東へ。やがて暗峠への山道に入るが、国道308号となった



暗越奈良街道

北川先生の「暗越奈良街道のツボ」

お伊勢参りに、亀瀬(かめのせ)奈良街道(今の国道25号)を使う人ももちろんいましたが、江戸時代の大坂の人々の多くは最短ルートである暗峠を越えました。熊野詣と同じで、遙かなる聖地、伊勢へ向かうまでに厳しい修行をするというイメージもあったのかもしれませんが、この街道、大阪からの日帰り観光ルートだったのです。江戸時代、生駒の聖天さん「宝山寺」が人気パワースポットになり、人々は日帰りで参詣に行きました。

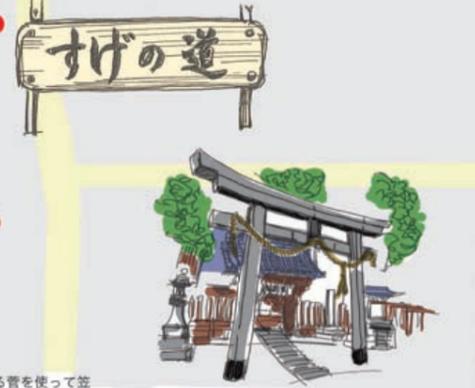
解説/奥村康治(放送作家)
取材/Brenda Chen(通訳)

街道旅を守った菅笠をつなぐ人々たち

暗越奈良街道の旅人がかぶった菅笠が、東成区の深江ですと作られていると聞いて、その担い手を訪ねた。慣れた手付きで少し濡らした菅を竹骨に付けて黙々と笠作り

今でも「激坂」「酷道」と恐れられているほどの登りだ。そんな難所を越え、奈良の猿沢池に着いたら、「上ツ道」と呼ばれた奈良上街道を南下して伊勢に向かう。

修行のような最短道だが、生駒聖天さんが人気で多くの人々がこの街道を通ったという北川先生の説明を聞くと、「峠を越えたらあの華やいだ宝山寺の境内が待っている」と、「最短」とは別の理由でこの道を選んだのではないかと感じた。「せっかくだからほかの名所にも、はいつの世でも同じだ。旅のお供となった菅笠は今も深江で作られている。



【深江福荷神社】



暗越奈良街道



【深江郷土資料館】
伊勢神宮の式年遷宮や大嘗祭で使われた菅笠など、深江地区と菅細工の歴史などが展示されている。館の前には地元篤志家の支援の下、深江菅田保存会の手により菅田を復元。
千日前線新深江駅3号出口から徒歩10分
◎大阪市東成区深江南3-16-14
☎06-6977-5555
9:30~12:00 13:00~16:30
(土日祝夜後は14:00~16:30) 無料



【深江菅細工保存会】
約2000年前、深江地区に自生する菅を使って笠などを作ったのが始まり。その伝統を受け継ぐため、地域で菅細工教室や体験会を開く。菅細工は大阪市無形文化財第1号、また大阪府伝統工芸品の指定を受ける。制作受注、販売も。
<http://fukae-suge-zaiiku.jp/index.htm>

暗越奈良街道の名所

- くらがりこえならかいどうのめいしよ
- 長堀鶴見緑地線 ● 玉造駅
 - 千日前線 ● 新深江駅
- 二軒茶屋跡**
長堀鶴見緑地線玉造駅6号出口から徒歩5分
大阪シティバス18・22・85号系統玉造停留所から徒歩5分
◎大阪市東成区神路4-1
- 深江郷土資料館**
千日前線新深江駅3号出口から徒歩10分
大阪シティバス86号系統高井田停留所から徒歩5分



買ひ物はワンクリックになっても菅笠の製法はずっと変わらない

今では保存会が町会と連携して、小学生がここで菅の植え付け、刈り取りを実体験できるようになり、その菅を使った菅細工の講習会も行われている。菅は10月に植えて翌年梅雨明けの7月に刈った後、天日干しに入る。日中は屋外で(昼は一度ひっくり返す)、夜は室内に入れて翌日また外に出す。これを2週間続ける。さらにいくつかの工程(約30時間)を経て完成だ。自然に沿ったもの作りは絶対に工程を省略できない。

古来、街道を行き来する人を直射日光や風雨から守った工芸品を絶やさず繋いでいる人たちが街道沿いの深江にいたとは。菅笠をかぶって暗峠への道を登ってみたい。

※国や自治体から緊急事態宣言や、外出自粛要請が発令されている際は、お出かけをお控えいただきますよう、お願いいたします。また、緊急事態宣言解除後もお出かけの際は密集・密接をつくらぬよう配慮ください。

「鉄道開通」の後に生まれた、阪神間直結バイパス街道。

大和田街道

起点・旧難波橋北詰
終点・兵庫県尼崎市

解説／奥村康治（放送作家）
取材／関真弓（放送作家）

大和田街道は大阪―神戸間に鉄道が開業して30年以上経った明治41年（1908）に開通した。旧難波橋から堂島川沿いを西へ進み、出入橋西詰を西北へ。現在の福島聖天通商店街から鷺洲く海老江を経て、開削されたばかりの新淀川（現淀川）の西成大橋を渡る。そして姫島く大和田を通り、神崎川を渡る。と尼崎にたどり着く。

従来の幹線道路である「中国街道」は起点の旧難波橋から十三へ向かい、神崎川を渡って尼崎から西宮に向かうという北寄りのルート。これに対して大和田街道は大坂と尼崎を最短距離で結び、物流を担った。しかし大正15年（1926）、淀川大橋が竣工して西成大橋が廃止され、大和田街道は「旧街道」となり、役目を終えた。その後は国道2号が阪神間の重要路線となり今に至る。

わずか18年の短命に終わった「街道」の名残を訪ねて、福島へ向かった。

「杜若」から川を渡って「再出発」

大和田街道の道標がそこに残る「売れども古い」福島聖天通商店街は、「浦江聖天さん」と呼ばれる福島聖天了徳院の参道でもある。かつて「北の心斎橋」と呼ばれるほどのにぎわいを見た。開店してから半世紀を超える「バイパス喫茶店」など個性

的な飲食店が今も軒を連ねている。聖天さんの別名は歡喜天。延命・敬愛・福德・除災、そして男女和合や縁結び、子宝の神様だ。早春には椿や梅、続いて桜、4月後半からは野田藤、梅雨時には紫陽花と季節の花が境内を彩る。近世は杜若の名所で『浪花百景』では「うらえ杜若」として紹介されている。芭蕉も門弟とこの地を訪ね「杜若語るも旅のひとつ哉」と詠んだ。海老江八坂神社の境内には「西成大橋」と書かれた橋名碑がある。この碑の隣に明治期、関西の俳壇で活躍した松瀬青々の句碑「菜の花のはじめや北に雪の山」があり、近くには松瀬青々が住んだ旧跡碑もある。境内には大きなクスノキやイチヨウが葉をつけ、長年生き抜いてきた木々から力をもたえる。春には稲荷社近くの豊後梅が花を咲かせ、豊かな実をつける。

淀川大橋を渡って対岸の姫島へ。道標を目印に大和田街道を歩くと往時の趣きが残っている。10分ほどで「やりなおし神社」と呼ばれる姫嶋神社。御祭神は阿迦留姫命と住吉大神、そして神功皇后だ。『古事記』によると阿迦留姫命は新羅の王子・天之日矛の妻となったが、夫に耐えかねて日本に戻って姫島の地に留まり、女性たちに機織りや裁縫、焼き物、楽器を教えて再出発をしたという。そうしたことから姫嶋神社は「決断と行動の神様」として多くの女性に親しまれてきた。御神木のクスノキは「再出発の木」として信仰を集めている。大和田街道の開通当時は主に馬や人力で荷物を運んだ。重い荷物を運ぶ人々を力づけるパワースポットが今も残っている。

※国や自治体から緊急事態宣言や、外出自粛要請が発令されている際は、お出かけをお控えいただきますよう、お願いいたします。また、緊急事態宣言解除後もお出かけの際は密集・密接をつくらぬようご注意ください。

【バイパス喫茶店】
1970年にオープン。店内は手書きのメニュー表や年代ものの調度品を見ることができ、昭和にタイムスリップしたような雰囲気が味わえる。店名の「バイパス」は「回り道、寄り道してでも立ち寄ってほしい」というところから。中国街道のバイパスであった大和田街道沿いの喫茶店にふさわしい店名だ。現在は二代目がお夫婦でお店を守っている。
大阪シティバス59号系統鷺洲停留所からすぐ
◎大阪市福島区鷺洲 2-6-11
☎06-6458-0858
7:00~18:00（土日祝~16:00）不定休

【海老江八坂神社】
ご祭神は素戔鳴尊（スサノノミコト）。境内にある石灯籠の年号から平安時代後期には存在したと推察される。夏例大祭では地車や枕太鼓が町内を巡行。地車の上での勇壮な「だんじり踊り」は最大の見せ場だ。境内の地蔵蔵には、東、西、南の三町の地蔵と北之町の枕太鼓が収蔵されている。
◎大阪市福島区海老江 6-4-2
☎06-6451-0264

【姫嶋神社】
境内に入って目に止まるのが帆立の貝殻に夢や目標が書かれた帆立絵馬。阿迦留姫命が夫から船で連れ、この地で再出発したため、帆立貝の泳ぐ姿が帆を立てて進む船にあやかって新しいスタートが順風満帆に進むようにとの願いが込められている。
◎大阪市西淀川区姫島 4-14-2
☎06-6471-5230

【海老江の石畳】
中海老江の交差点から少し南に下った海老江5丁目あたりの一角に石畳が残る路地がある。「昔はもうちょっと風情があったんやけど」と地元のおばちゃんが教えてくれたが、今でも十分昔の面影が感じられる。

北川先生の「大和田街道のツボ」
この街道のもとになる道は江戸時代からありました。このルートが重要になったのは、江戸時代末期。西国雄藩の活動が活発になり、大坂城に詰めている幕府の軍勢が西国の有事に備える必要性が高まりました。そんなことから大坂と尼崎を結ぶ中国街道のバイパスが整備されることになりましたが、そのうちに大政奉還となり、武家社会が終焉したのです。

【福島聖天了徳院】
（東寺真言宗如意山了徳院）
境内は水かけ不動、白髪稲荷大明神、阿弥陀如来や世直し地蔵など神仏習合の、大阪らしい空気感に溢れている。水引で野田藤を形どった一願成就のお守り（1,000円）は女性をはじめ参詣者に大人気。福島聖天了徳院（東寺真言宗如意山了徳院）
◎大阪市福島区鷺洲 2-14-1
☎06-6451-7193

大和田街道の名所

- おおわだかいどうのめいしよ
- 千日前線 ● 野田阪神駅
 - 福島聖天了徳院
千日前線野田阪神駅3号出口から徒歩15分
大阪シティバス39号系統福島8丁目停留所から徒歩約3分、59号系統鷺洲停留所から徒歩約4分
 - 海老江八坂神社
大阪シティバス59号系統中海老江【東】停留所から徒歩約3分
 - 姫嶋神社
大阪シティバス43号系統姫島停留所から徒歩約8分

カキツバタの道を
いにしへの気持ちで
歩くと…

俊徳街道は、聖地へ向かう物語の道だった

河内国高安の長者、信吉の嫡子・俊徳丸は才能にも容貌にも秀で、乙姫という許嫁もいたが、継母に毒を飲まされ不自由な体になってしまふ。生まれ変わる事ができると信じて熊野三山を目指し、途中で施しを受けるが、容姿をからかわれたことで傷ついて四天王寺に戻り、ここで餓死することを決意する。

乙姫は四天王寺で俊徳丸を見つけ、鳥籠で「せんざいなれ、せんざいなれ」と献うし、俊徳丸は元の姿に戻った。

この物語のとはは謡曲「弱法師」で、やがて五説経の「しんとく丸」になり、浄瑠璃の「摂州合邦辻」となる。

「元はといえば、四天王寺の靈験を語る物語です。「聖」と呼ばれた布教者が庶民の中に分け入って、語りました。すると多くの人びとは「四天王寺に行けば蘇る」「これが俊徳丸の通った道か」と、こぞこの街道を歩きました。俊徳街道は聖地へ誘う道だったのです」（北川央さん）

物語の力はそれほど強かったのだ。



俊徳丸の物語でクライマックスとなる四天王寺の夕日。彼岸には石居の真ん中に沈む。かつては鳥居の向こうがすぐ海だった 写真/浜田智則

Osaka Metro 沿線から奈良をぐるっと、1日乗り放題

奈良 1day チケット
Nara Ikaruga 1day ticket

発売中～2023/3/31(金)
有効期間 2023/4/30(日)まで
Osaka Metro・大阪シティバス沿線から大人1,950円

OsakaMetro 全線・大阪シティバス全路線(一部路線除く) + 近鉄電車・奈良交通バスの指定区間
1日乗り放題 + 1日乗り放題



生産地と大消費地を結ぶ、生鮮野菜物流ルート。

亀岡街道

起点・高麗橋
終点・京都府亀岡市

解説／奥村康治（放送作家）
取材／Brenda Chen（通訳）

「天神橋筋商店街」はかつて亀岡街道（高麗街道）だった。高麗橋から天神橋を経て商店街に沿って北上し、天神橋5丁目まで右折、北北東の長柄へ。吹田村・中川原村（茨木市）清阪峠を経て亀岡に至る。北摂の小

松菜、三つ葉、セリ、ウコギなどの野菜や薪が目的地の「天満青物市場」に向けて運ばれた。市場は石山本願寺創建の明応5年（1496）に門前青物市として発祥し、その後大川沿いに移転。その跡碑から街道歩きを始めた。



街道の匂いを残す老舗を訪ねる

亀岡街道の物流的な終着点である天満橋北詰。江戸時代には大川沿いに天神橋北詰まで広がる天満青物市場が大変な賑わいを見せたらしい。界限は主要な水路と陸路を結ぶ要衝だったので、パンコクの水上市マーケットのように川が混雑したことだろう。そこから北に行つた天神橋筋商店街は、天神橋を起点に天神橋7丁目まで延びる。大阪天満宮より南の1丁目は落ち着いた空気が漂っているが、2丁目より北は商店街のにぎわいになる。

わたった、欧米からの顧客も非常に多く、文様入りの物や和包丁が人気だという。花鋏や能面入りの彫刻刀なども多く扱い、盆栽用の剪定鋏を購入する海外のマニアもいる。商店街をさらに北へ歩くと、幕末創業の御菓子司「薫々堂」に着いた。屋号は天満宮に



【御菓子司 薫々堂】
元治元年（1864）創業で来年は160周年。玉子煎餅の「難波津」は120年を超えるロングセラー。みなさん贈答用と自家用の両方買っている。早春の梅大福の後は花見団子に桜餅、草餅の季節だ。
◎大阪府北区天神橋 3-2-27
10:00～19:00 火曜休
☎06-6351-0375

北川先生の「熊野街道のツボ」

亀岡街道は峠越えをする西国三十三所の巡礼者に「追い刺ぎが出るから気をつけるように」という注意が呼び掛けられていたほど、天神橋筋とは違って寂しいところを通っていました。



亀岡街道の名所

- 谷町線 ● 天満橋駅・南森町駅
 - 堺筋線 ● 南森町駅
- かめおかかいどうのめいしょ
- 天満青物市場跡
谷町線天満橋駅2号出口から徒歩約5分
大阪シティバス10・21・31・46・62号系統天満橋停留所から徒歩約5分
大阪天満宮
谷町線・堺筋線南森町駅7号出口から徒歩約3分
大阪シティバス36号系統南森町（大阪天満宮）停留所から徒歩約3分
國重刃物店・薫々堂
谷町線・堺筋線南森町駅5号出口から徒歩約3分
大阪シティバス36号系統南森町（大阪天満宮）停留所から徒歩約5分

極め付きパワースポット行きの巡礼ロード。

熊野街道

起点・大坂天満八軒家
終点・熊野本宮

解説／取材／奥村康治（放送作家）

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録され、人気のパワースポットとなっている熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）を目指すルートが熊野街道である。起点は八軒家浜。上皇や貴族は京から船で下って上陸した。そこからは庶民に至るまでが10日以上かけて歩いた。その様子は蟻の行列になぞらえ、「蟻の熊野詣」と呼ばれた。街道を延々と歩くことに意味があったのだ。白河上皇は9回、鳥羽上皇は21回、後白河上皇に至っては33回とも34回とも伝えられる。平安時代の熊野行幸の回数は、実に100回近くに上った。

その八軒家浜から、長い熊野詣のプロローグを味わうために大阪市内を歩いた。

渡辺津と最初の「九十九王子」

谷町線天満橋駅2号出口を上がると、目の前に大川が広がる。3月末なら「天満青物市場跡」の碑（右頁）がある対岸の南天満公園の桜が満開だ。近くの「八軒家浜船着場」から遊覧船が発着する。夕方なら屋形船が何隻も浮かぶこともあるし、朝はSUP（スタンドアップパドルボード）も目にする。この辺り、平安時代は「渡辺津」と呼ばれ、中世の日本では最大の港湾都市だったのだ。八軒家浜に復元された常夜灯に埋め込まれた

碑文には、熊野詣に参拝する人びとは「九十九王子」をたどりながら熊野を目指したと書かれている。「王子」とはその名の通り、熊野の神様の御子神、子どもの神様がそこに出現したということ。それで「王子社」という神社が次々とできていった。人びとは「王子」でお参りをして神業を上げ、休憩したり宿泊したりしながら熊野を目指した。

渡辺津から南へすぐのところには坐摩神社の行宮がある（現在は社殿と社務所を改装中）。元はここに本社があったのだが、秀吉の命により、現在の本町駅に近い中央区久太郎町に遷座することになった。第一王子である渡辺王子（雀津王子）は坐摩神社旧鎮座地である行宮の場所にあったと言われる。ただ、坐摩神社が渡辺王子を兼ねていた訳ではないらしい。権禰宜の渡邊一登さんは「昨年の神社による文献調査で、坐摩神社は渡辺津あたりで場所を何度か換えていて、渡邊王子が坐摩神社と並立していた可能性もあるかもしれない」と話す。歴史の謎がまた一つ提示された。

ところで、渡辺津は全国の「渡辺」姓発祥の地と言われる。渡辺津あたりが「渡」のあり、畔、辺り」ということで地名が渡辺となり、そこに住む人たちが「渡辺」姓を名乗り始めた。そう教えてくれた坐摩神社の宮司も代々渡辺（渡邊）さんだ。本社の住所も「大阪市中央区久太郎町4丁目渡辺3号」という。

北川先生の「熊野街道のツボ」①

熊野本宮に参拝すれば、極楽往生の証を得ることができる。そんな考え方がまずは皇族、貴族の間で広まりました。平安の中頃、疫病が流行り、不作が続き、巷には生活できない人が溢れていました。まさに末法。現世は苦しいが、死後、極楽浄土へ行くと、幸せな生活を営める。浄土へは生きている間に品行方正な生活をした人だけが行ける。熊野詣が流行したのは、死後の幸せを求めてのこと。それほど時代が切羽詰まっていたということでしょう。遠い熊野に歩いて行くこと自体が修行です。苦行することによって、自分の罪や穢れが浄化されて自分が清らかな体になれるという考え方に基づいたものです。



「蟻の熊野詣」のことわざはここからはじまった...

※国や自治体から緊急事態宣言や、外出自粛要請が発令されている際は、お出かけをお控えいただきますよう、お願いいたします。また、緊急事態宣言解除後もお出かけの際は密集・密接をつくらぬよう配慮ください。

熊野街道は別のルートがあった!?

現在、熊野街道とされている道には随所にその石碑が立っている。しかし北川先生は「中世の熊野街道は別のところを通っていた」と考えている。かつて上町台地のすぐ西側まで海が迫っていた。その海沿いの道が熊野街道だったというのだ。熊野街道は和歌山県に入ると、大辺路、中辺路、小辺路と呼ばれるが、上町台地の海沿いのへりを走る熊野街道はまさに「辺路」という言葉に相応しい。

しかし天正11年(1583)、上町台地の様相は一変する。秀吉の大坂城築城により城下町が造られ、中世の「辺路」は失われていった。だがその中で一箇所だけ、その痕跡と思われる場所がある。

天王寺区生玉寺町、銀山寺の北側にある源聖寺坂を下るとすぐに現れる、銀山寺西側の石垣に沿った南北60メートルほどの細い路地(周辺住民の私道)がそれだ。

生玉寺町の「辺路」にカレーの味

北川先生は銀山寺所蔵の文書に、「古来、生玉寺町西側輪延寺より九心寺迄、下寺町は浄国寺より南、光伝寺迄の間に、往古において小栗海道と称する道幅八間の空き地これあり」という記述を見つけた。「小栗海道」というのは熊野街道の別名。北川先生はこの文書を見て、元々の熊野街道は渡辺津から上町台地の海沿いの断崖の上を真っすぐに南下していたであろうと考えた。そして、その路地こそが元々の「辺路」、熊野街道なのだ。

南北の路地を奥へ行くと、壁が水色に塗られた民家があった。「PANINI」と書かれた木の看板が壁に掛かり、店の前には木のベンチがある。店名は「源聖寺坂とみや」。店主の榎山和彦さんは元空間プランナー。上海万博のパビリオンや「道の駅」のプランニングをしていたが、母親の介護をきっかけに実家を改装して店を出した。料理経験はなかったが、イタリアが好きだったという。

「現地でも美味しかったものを日本人の口に合うように再現します。ゼロから構築できたのはプランニングの経験のおかげ」カレーも名物だ。榎山さんの父が心齋橋で開いていた店の味を再現したという。「1960年から約30年間、「トミヤ」というカレー専門店をしていました。味を

北川先生の「熊野街道のツボ」②

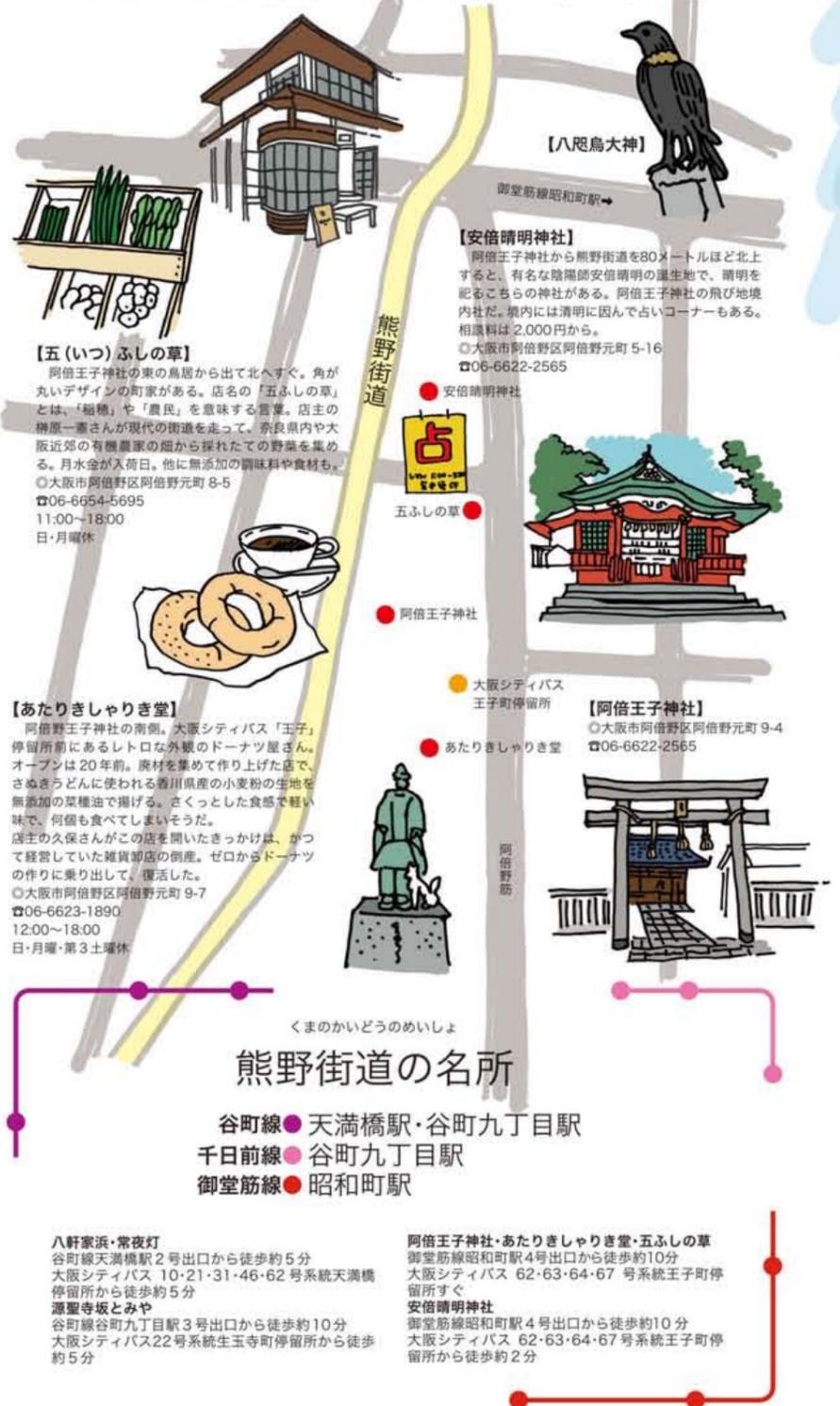
中世の道が途中で直角に曲がるなんてあり得ないんです(地図参照)。本来の熊野街道は、現在石碑が建てられているルートとは違い、渡辺王子(窪津王子)から上町台地の断崖上を真っ直ぐに南下して、四天王寺に至った可能性が高い。熊野街道は「辺路」と呼ばれていました。辺路とは海際の修行の道のことです。西日が真っ赤に海を染める光景は極楽浄土の存在を思わせるに相応しいものだったと思います。

父から直接受け継いだ訳ではなく、店に合った材料の視覚的な記憶からです。80年代、数々の人気雑誌に取り上げられたそのカレーはスパイスの鋭い香りと深いコクがミックスされ、懐かしさが感じられる。「辺路」の記憶を残す路地に親子のカレー物語があった。



そして、阿倍王子神社へ

大阪府下の「九十九王子」の中で、唯一、旧地に現存しているのが、阿倍王子神社だ。仁徳天皇が創建し、奈良時代には豪族「安倍氏」の氏神社だった。平安時代、安倍氏が朝廷での勢力を失う頃、熊野信仰が盛んになり、熊野王子社の一つとなった。主祭神には熊野王子神の未柱と応神天皇。それに加え、熊野の神の使いである八咫鳥大神を祀る御鳥社も。八咫鳥をかたどったおみくじや絵馬が熊野との結びつきを見た目でも感じさせてくれる。阿倍野筋の反対側、境内の西側に熊野街道が通る。「以前は阿倍野筋がなくて、熊野街道がメインストリートでした。社殿も極楽浄土の方向である西を向いていたのです」と宮司の長谷川裕高さん。時折、歩いて熊野詣をする人が訪れるというが、かつて「蟻の熊野詣」と言われたような街道のにぎわいはもうない。今では地域の氏神として信仰を集める。



熊野街道の名所

- 谷町線 ● 天満橋駅・谷町九丁目駅
- 千日前線 ● 谷町九丁目駅
- 御堂筋線 ● 昭和町駅

- 八軒家浜・常夜灯 谷町線天満橋駅2号出口から徒歩約5分 大阪シティバス 10・21・31・46・62号系統天満橋停留所から徒歩約5分
- 源聖寺坂とみや 谷町線谷町九丁目駅3号出口から徒歩約10分 大阪シティバス22号系統生玉寺町停留所から徒歩約5分
- 阿倍王子神社・あたりきしゃりき堂・五ふしの草 御堂筋線昭和町駅4号出口から徒歩約10分 大阪シティバス 62・63・64・67号系統王子町停留所から徒歩約2分
- 安倍明神社 御堂筋線昭和町駅4号出口から徒歩約10分 大阪シティバス 62・63・64・67号系統王子町停留所から徒歩約2分

Osaka Metro 南森町駅に 本格ウイスキーバー「お酒の美術館」がオープン

Osaka Metro 駅構内にバーが出店するのは初めてです。改札外に出店するため、お買い物や運動の帰り道など、駅を利用されるお客さまだけでなく、周辺にお住まいの方にも、お気軽にご利用いただけます。

お酒の美術館がオリジナルでブレンドした樽ウイスキー「限定オリジナルブレンド樽」南森町(500円)は、樽香、調和の取れた柔らかな味わいが特徴、ハイボールがおすすめです。

14~23時まで / チャージ無料で一杯500円から

「アルキメトロ」読者アンケートにご協力ください

今回のアルキメトロはいかがでしたか? 読者アンケートに答えると抽選で、本誌4ページで紹介の「BUNROKU 文禄堤薩摩英国館」のオリジナル紅茶「夢ふうぎ」(ティーバッグ5個入り)2セットを10名様にプレゼント。

「薩摩英国館」所有の鹿兒島の農園で育てた茶葉を紅茶に仕上げています。爽やかな香りをお楽しみください。守口のお店では6月になると、ファーストフラッシュ(新芽)の「夢ふうぎ」を味わえます。

締切/2023年4月9日(日)

●アンケートフォームはこちら▶

表紙のこぼれ

「街道といえば 東海道五十三次…」

小学生の頃、今思えば地味な趣味だけれど、切手を集めるのが好きだった。子供だから高価な切手は買えなかったけれども、広重の東海道五十三次(国際文通週間)は特に気に入りのシリーズだった。昔は歩いて移動していた江戸と京を結ぶ東海道五十三次に、大阪に至る五十七次までがあったとは! 大阪にまつわる街道は、観光や物流や宗教などさまざまな目的で作られていて、それを想像しながら歩いてみたい。(神谷)

アルキメトロ 2023年春号
表紙絵・イラスト・デザイン/神谷利男
編集/株式会社140B
発行/大阪市高速電気軌道株式会社
2023年2月17日発行